

文化財ニュース いわき

第 71 号

平成 25 年 11 月 9 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

こばらいせき 小原遺跡の発掘調査成果

— 台地に広がる縄文時代早期の遺跡 —

【現地説明会 平成25年11月9日（土）10：00～12：00】

小原遺跡は、福島県いわき市岩間町小原地内に位置します。JR常磐線植田駅から東に約2km、眼下に常磐共同火力発電所を望む鮫川河口左岸の台地上に所在します。これまでの調査では、縄文時代の^{おとし}落し穴や^{あな}土坑などが見つかっています。

小原遺跡の東側の台地には、大畑G式土器の標識遺跡である大畑貝塚（G地点）や須賀蛭^{がひる}A～C遺跡、旧石器時代～弥生時代にかけての遺構が見つかった輪山遺跡、縄文時代早期の遺物が出土した小浜西ノ作遺跡など、縄文時代早期の遺構と遺物を検出する遺跡が点在しています。



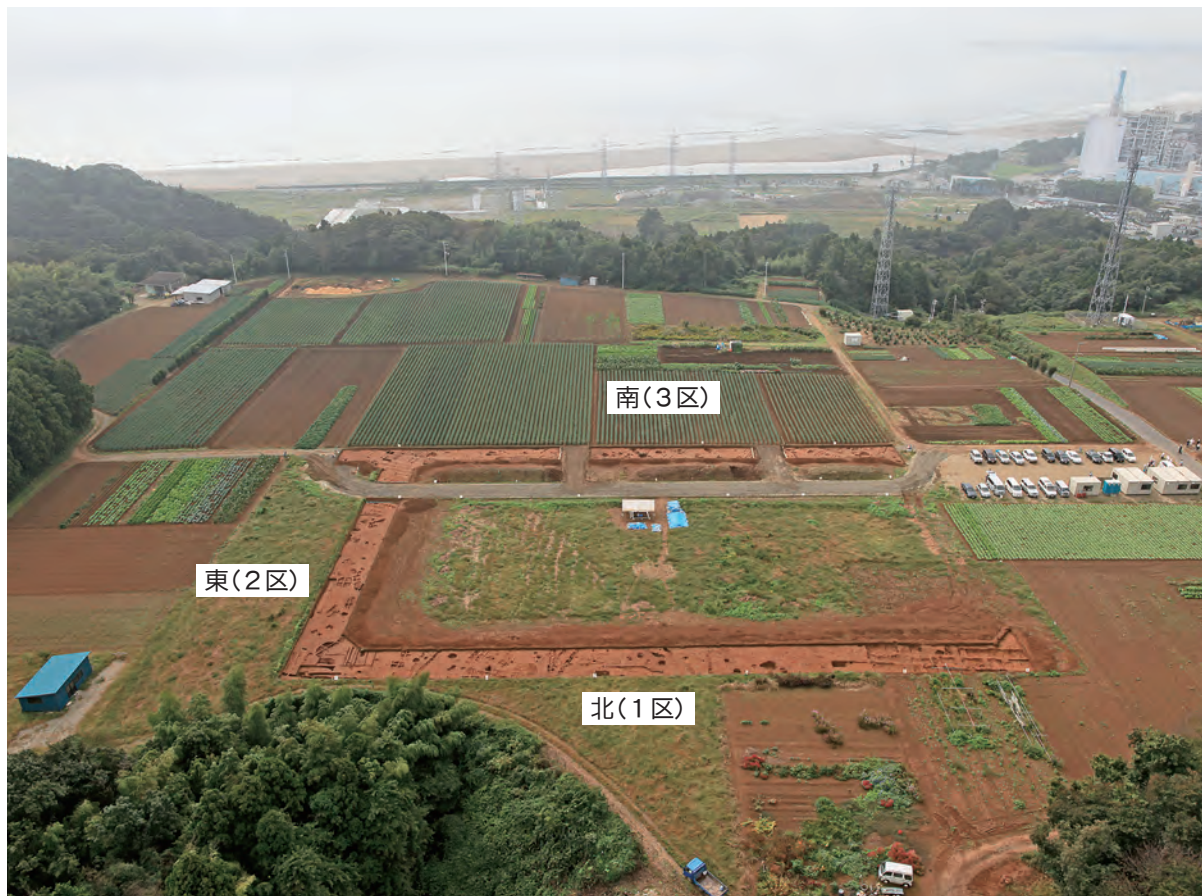
小原遺跡と周辺の縄文時代の遺跡
(国土地理院25,000分の1の地図を元に作成)

また、弥生時代においても、大畑A～F遺跡、須賀蛭A～C遺跡、輪山遺跡、^{おぼまだい}小浜台遺跡、^{はちまんだい}八幡台遺跡など、輪山式土器とその遺構が検出されており、小原遺跡が所在する台地とその周辺は、縄文時代前・晩期および弥生時代中～後期までの遺跡群が所在する台地であることが分かっています。

今回は岩間震災復興土地区画整理事業に伴うもので、平成24年6月4日～6月15日まで試掘調査が行われ、その結果をもとにして平成25年8月9日から発掘調査を行いました。調査区は下の写真のように「コ」の字型をした区画道路部分です。調査面積は1,660㎡です。

調査の結果、^{たてあなじゅうきょあと}竪穴住居跡1棟、^{おとしあな}落とし穴2基、^{しょうせいこう}焼成遺構5基、^{みぞあと}土坑41基、^{みぞあと}溝跡4条、^{ふうとうぼくあと}風倒木跡1基が1区と3区に集中して見つかりました。柱のような穴はありませんでしたが、直径20cm前後の小さな穴が30個ほどありました。1～3区ともに、畑の耕作による削平や^{かくらん}攪乱を受けており、耕作土の下から遺構が発見されています。

竪穴住居跡や土坑・焼成遺構の一部から、縄文時代早期末葉に位置づけされる縄文土器や石器などが出土しています。このほか、弥生時代後期初頭の伊勢林前式土器や、土師器の高台付杯、須恵器の甕などがわずかに出土しています。



小原遺跡 調査区全景（写真右上は常磐共同火力勿来発電所）



1号竪穴住居跡（1区）

竪穴住居跡

1号竪穴住居跡は1区から見つかりました。遺構の一部が調査区外に続いているため形は不明ですが、不整円形と考えられます。長軸は3.6m以上、短軸は3.1m、住居跡の上部は畑の耕作によって削平されているため、検出面から床面までの深さは10cm～17cmです。床面は緩やかな起伏があります。炉・柱穴は見つかりません。

遺物は、剥片や、右の写真にあるような小片の土器が散らばって出土しています。土器の文様などから縄文時代早期末葉に位置付けられることが分かりました。

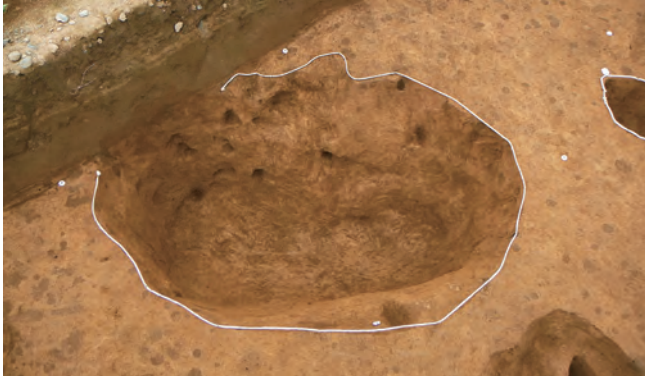


縄文土器（1号竪穴住居跡出土）



縄文土器（1号竪穴住居跡出土）

とじておきましょう。



1号落とし穴（3区）

落とし穴

落とし穴は、動物を捕らえるための穴です。1号落とし穴の断面形態は「U」の字型をしています。長軸は1.92m、短軸は1.34m、深さは60cmです。落とし穴は、これまでの発掘調査でも台地の東側から1基見つかっています。



1号焼成遺構（3区）

焼成遺構

焼成遺構からは焼土や木炭が出てくるのが特徴です。長軸は1.14m、短軸は0.85m、深さは10cmです。

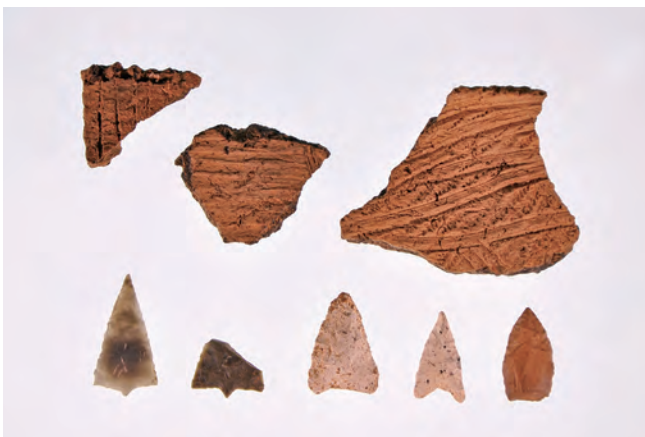
土器は出土しておらず、時期と性格は不明です。



29号土坑（1区）

土坑

29号土坑や32号土坑のように縄文土器・石器を多く出土するものもありますが、多くは上部を後世の耕作によって削平されているため、本来の規模は分かっていません。



縄文土器（上段）と石鏃（下段）

出土遺物

縄文土器は、沈線文や口縁部にキザミがある土器、貝殻とヘラで内外面に文様を描き、胎土中に植物の繊維が入る土器などがあり、約7,000年前の縄文時代早期末葉に位置づけられる土器が中心に出土しています。

石鏃^{せきぞく}は様々な形のものが出土しています。